

# 英語トライアル版テキスト



パイロット予備校



Genius is one percent inspiration and ninety-nine percent perspiration.

天才とは、1%のひらめきと 99%の汗である。

—Thomas Edison

航空大学校平成 23 年度英語過去問完全攻略

目次

|            |    |
|------------|----|
| はじめに       | 2  |
| 本テキストの利用法  | 3  |
| 過去問表紙      | 6  |
| 過去問解答用紙    | 7  |
| 過去問題       | 9  |
| リーディング・テスト |    |
| Ⅰ          | 9  |
| Ⅱ          | 10 |
| Ⅲ          | 12 |
| 解説         | 14 |
| Ⅰ          | 14 |
| Ⅱ          | 18 |
| Ⅲ          | 31 |
| 解答         | 43 |
| コラム        | 45 |

## はじめに

「まず、過去問をやること。」これは航大合格者が一様に口をそろえて後輩にアドバイスすることである。このアドバイスには、色々な意味合いが含まれてはいるが、主な趣旨は次の3つである。

- ①過去問は、あなたの弱点と長所、つまり現在の実力を明確にできる「ものさし」である。
- ②過去問は、入試本番での出題を予測するための「コンパス」である。
- ③過去問は、あなたの受験戦略や戦術を組むための「地図」である。

本テキストは、これらの「過去問をやること」の意図をしっかりと組み込んで作成された、航空大学校過去問の実践的な解説書である。

まずは一度、時間を計って過去問を解いてほしい。

自分の実力が明らかになるのは、多くの人にとって気持ちの良いものではない。しかし、その不快感こそが、合格への「はじめの一步」になる。

その痛みを受けて前に進める人にだけ、過去問は合格への道を示してくれる。余計な道草は、いらぬ。

**道先の案内人には、超一流の講師が待っている。**

一度で理解する必要はない。そんなに簡単なものでもない。分からない部分は、何度も授業を見直せばよい。

迷うことなく、このテキストと授業を繰り返し活用して、航大に合格できる実力を、無理なく養ってほしい。成功を切に祈る。

## 本テキストの利用法

### 1 過去問について

#### ①まず、解答用紙をコピーすること。

これは、過去問に何度でも挑戦できるようにするためである。

あくまで、解答用紙にこだわってほしい。

本番を少しでもイメージするための訓練だ。

イメージトレーニングは、パイロットの必須能力である。

#### ②次に、時間を計ること。

ライティング・テストの時間は70分。

これを何回か挑戦するうちに、あることが見えてくる。

それは、「何分以内に、どこまで書き込んでいなくてはならないのか」ということ。

解答用紙にあなただけの時間の地図が見えるようになる。

時間管理もパイロットの大切な能力だ。

### 2 授業及び解説について

#### ①過去問をやった後は、なるべくすぐに見る。

自分の分かっているところ、分かっていないところが明確な内に確認作業に入る。

「分からない、不快だ、イヤだ」の感情が新鮮な内にチェックする。

時間を空けると、理解できていない部分があやふやになる。

#### ②英文の構造をテキストに書きこむこと。

テキストには、余白の多い英文がいくつかある。

それは、英文を理解する上で重要な構造を持つ、あるいは点数に直結する構文であり、

講師が、授業で詳しく丁寧に解説してくれている。

英文の構造は、最も高い点数配分を持つ「英文和訳」において必須の知識だ。  
どんなに単語を知っていても、どんな凝った和訳をしても、  
英文和訳で構造を誤ると0点になる可能性が高い。

ここで大量得点を重ねるには、構造を知ることが不可欠なのだ。  
わずか1問2~3点の中に多くの受験生がひしめく航大受験では、  
ここでの失点は致命傷になる。

目で見ただけでは足りない。  
自分の手が書いてこそ、本当に理解できる。  
見るだけで良いのは、書いたことのある人だけだ。

### ③繰り返すこと

最終目標は理解することではない。  
解答用紙の上に「再現」できることである。  
ここを明確に「理解」していないと、実力がつかず、「自分はできない」と思いこむ。

再現することは、スポーツに似ている。  
繰り返しが重要である。  
飛行訓練もまた同じ。  
航大入試は、あなたの「再現」能力を磨く最後のチャンスなのである。

## 3 テキストの構成や表記について

### ①テキストの構成

長文読解問題においては、全ての文章に、【構造分析】、【音読用】、【語彙】をつけた。  
問題を解き、授業を受けた後の復習用として用いてほしい。

### ②テキストで使用する記号

- [     ] ⇒ 名詞の働きをするもの（名詞、名詞句、名詞節）
- (     ) ⇒ 形容詞の働きをするもの（形容詞、形容詞句、形容詞節）
- <    > ⇒ 副詞の働きをするもの（副詞、副詞句、副詞節）

主文(主節)の構造 ⇒ S=主語 V=動詞 O=目的語 C=補語 M = 修飾語句

主文(主節)以外の構造 ⇒ **S**=主語 **V**=動詞 **O**=目的語 **C**=補語 **M** = 修飾語句

Vpp = 過去分詞 Ving = 現在分詞および動名詞 to V原 = 不定詞

～ ⇒ 名詞 … ⇒ 形容詞/副詞 (～と共に使われている際は、名詞を示す)

・・・・ ⇒ その他の品詞

#### 4 その他

##### ①航空知識のコラムを設けた。

航大入試問題の特徴に、航空知識に関する出題がある。

本番で知っている内容ができれば有利であるし、

入学後にも知っていなければならない内容である。

##### ②本テキストは、リスニング・テストの解説を行わない。

ただし、大きな配点と合格後も必要な能力であるため、何とか対策を打つ必要がある。

そこで、「英語リスニング完全攻略」で実践的な傾向と対策を行っている。

リスニングについては、そちらを参照されたい。

# トライアル問題

制限時間 5 分

Ⅲ 次の文章を読んで、以下の設問に答えよ。

With financial hard times whipping up anti-immigrant sentiment across Europe, French President Nicolas Sarkozy has bowed to the angry wind by launching a national debate on what it means to be French (1). The touchstone of this discussion remains the widespread rioting of 2005, which seemed to prove that France is a land of increasingly marginalized and restive migrants. Into the center of this fray comes a new book, which shows that integration *a la francaise* works better than most French imagine.

In *The Destiny of Immigrants' Children*, authors Claudine Attias-Donfut and Francois-Charles Wolff offer a landmark survey of 6,000 migrants and 19,000 of their offsprings. It is the first time that a study on immigration in France focuses on migrants from all continents. The authors' deliberate intent is to counter the common fiction of French political debates, which tend to define "*les immigrés*" as African and Arab newcomers, and to use immigration as a pretext to talk about ethnicity, an otherwise taboo notion in France.

The book's main finding is that a family's class origins play a much bigger role than their country of origin in determining whether their children will thrive in France (2). The child of a doctor from Morocco is much more likely to succeed at school than the child of a stonemason from Poland. Another key to success is having parents with a positive attitude: the more Mom and Dad value French education and France as a whole, the more likely their children will succeed.

And they do. Almost 50 percent of the children of immigrants have at least a high-school diploma – compared with just 12 percent of their siblings who stayed in the home country. And while the majority of immigrant mothers received only a primary-school education, the majority of their daughters received a college diploma, which shows that the integration system is indeed working. "People think that you can neither assimilate nor integrate immigrants. It is not true, and that's not even the problem. The problem is socioeconomic. We shouldn't have to ask them to choose between integration and maintaining a link with their roots (3)," says Attias-Donfut. This doesn't mean, however, that integration leads to a dream situation – just to the same reality as those nonimmigrant citizens who have a comparable socioeconomic background. But isn't that exactly what integration means? For France's policymakers, this book suggests that their time might be better spent on policies that create opportunity for the poor (immigrant or not) than on debating who can rightly call themselves French (4).

問1. 下線部(4)を日本語に訳せ。(6点)



# トライアル 解答・解説

⑨ 問題を解くまでは見ないこと！

## 解 説

<第1パラグラフ>

① With financial hard times whipping up anti-immigrant sentiment across Europe. ② French President Nicolas Sarkozy has bowed to the angry wind by launching a national debate on what it means to be French (1). ③ The touchstone of this discussion remains the widespread rioting of 2005, which seemed to prove that France is a land of increasingly marginalized and restive migrants. ④ Into the center of this fray comes a new book, which shows that integration *a la francaise* works better than most French imagine.

【板書用】

① With financial hard times whipping up anti-immigrant sentiment across Europe.  
 ② French President Nicolas Sarkozy has bowed to the angry wind by launching a national debate on what it means to be French (1).

【ワンポイント解説】

L.1: with 名詞 Ving (Vpp) の形で用いられる付帯状況の with に注意しましょう。「名詞がVする(されている)状態で」という意味になります。

【和訳】

ヨーロッパ全域が、反移民感情をあおる財政難の時期にあることから、フランスのニコラ・サルコジ大統領は、フランス国民とは何かという国民的議論を始めることで、怒りの嵐に屈した。(1) 同議論の根本となったのは、未だ解決されていない広範囲に及んだ2005年の同国内での暴動だったが、それはフランスという国家が、人口を急激に増やしつつも、阻害され、かつ反抗的な移民による国家であると証明したかに見えたものだった。同暴動の核心にせまる新刊では、大半のフランス人が想像するよりも、「フランス流の」(差別を撤廃した)統合はうまく行っていることを示している。

【音読用】

With financial hard times / whipping up anti-immigrant sentiment / across Europe / ,

財政難が

反移民感情を駆り立てる

ヨーロッパ中を

French President Nicolas Sarkozy / has bowed / to the angry wind / by launching a national  
 フランスのニコラス・サルコジ大統領は お辞儀をした 怒りの嵐に対して 国家の議論を始めることで  
 debate / on what it means / to be French /. The touchstone / of this discussion / remains the  
 何を意味するかについて フランス人であること 根本は この議論の 暴動が広まった  
 widespread rioting / of 2005 /, which seemed to prove / that France is a land / of increasingly  
 ままである 2005年の それは証明しているように見えた フランスが土地である ますます  
 marginalized / and restive migrants /. Into the center / of this fray / comes a new book /,  
 阻害された 反抗的な移民の 中心の中に この傷の 新しい本があった  
 which shows / that integration a la francaise / works better / than most French imagine /.  
 それは示している 「フランス流」統合は よりうまくいっている ほとんどのフランス人が創造するより

【構造分析】

〈(With financial hard times whipping up anti-immigrant sentiment across Europe) , French  
 M S  
President Nicolas Sarkozy has bowed 〈to the angry wind〉 〈by launching a national debate (on  
 V M M M  
 [what it means to be French])〉 . The touchstone (of this discussion) remains the widespread  
 S M V C  
rioting (of 2005), (which seemed to prove [that France is a land (of increasingly marginalized  
 M M 形容詞節 V O 名詞節 S V C  
 and restive migrants)]) . 〈Into the center of this fray〉 comes a new book, (which shows [that  
 M V S M 形容詞節 V O 名詞節  
integration a la francaise works better than most French imagine]).  
 S V

【語彙】

|   |     |            |
|---|-----|------------|
| <input type="checkbox"/> financial                | 形容詞 | 財政的な、経済的な  |
| <input type="checkbox"/> hard                     | 形容詞 | 困難な        |
| <input type="checkbox"/> times                    | 名詞  | 時代         |
| <input type="checkbox"/> whip up ~                | 熟語  | 刺激する、駆り立てる |
| <input type="checkbox"/> anti-immigrant sentiment | 名詞  | 反移民感情      |
| <input type="checkbox"/> French President         | 名詞  | フランス大統領    |
| <input type="checkbox"/> bow to ~                 | 熟語  | ~に屈する      |
| <input type="checkbox"/> launch                   | 動詞  | 開始する       |

|                                       |     |             |
|---------------------------------------|-----|-------------|
| <input type="checkbox"/> national     | 形容詞 | 国家の         |
| <input type="checkbox"/> debate       | 動詞  | 議論する        |
| <input type="checkbox"/> touchstone   | 名詞  | 基準          |
| <input type="checkbox"/> discussion   | 名詞  | 議論          |
| <input type="checkbox"/> remain ~     | 動詞  | ~のままである     |
| <input type="checkbox"/> widespread   | 形容詞 | 広がった        |
| <input type="checkbox"/> rioting      | 名詞  | 暴動          |
| <input type="checkbox"/> seem to V 原  | 熟語  | V するようだ     |
| <input type="checkbox"/> prove        | 動詞  | 証明する        |
| <input type="checkbox"/> increasingly | 副詞  | ますます        |
| <input type="checkbox"/> marginalized | 形容詞 | 取り残された      |
| <input type="checkbox"/> restive      | 形容詞 | 反抗的な、手に負えない |
| <input type="checkbox"/> center       | 名詞  | 中心          |
| <input type="checkbox"/> fray         | 名詞  | 擦り切れた部分、傷   |
| <input type="checkbox"/> imagine      | 動詞  | 想像する        |
| <input type="checkbox"/> call O C     | 熟語  | O を C と呼ぶ   |

## トライアル版解答

| Ⅲ   |   |
|-----|---|
| 問 1 | ヨーロッパ全域が、反移民感情をあおる財政難の時期にあることから、フランスのニコラ・サルコジ大統領は、フランス国民とは何かという国民的議論を始めることで、怒りの嵐に屈した。 |

## コラム「羽田空港ハブ化」

羽田空港を国際拠点（ハブ）化し、広域航空路線網の中心として機能する空港にしようという政策。そのためには、航空ダイヤにおいて各航空機の接続が機能していなければならない。アジア圏では、香港、ソウル・仁川、バンコク・スワンナプーム、シンガポールなどハブ空港としてひしめいている。

ハブとは、自転車などの車軸の意味がある。拠点空港に各地から航空機が集まる様子が、ちょうど車軸から放射状に広がる棒（スポーク）に似ているため、その中心にある拠点空港をハブと呼ぶようになった。航空需要が少ないため直行便を飛ばせないような地方の都市間でも、このハブ空港を介せば、乗り換え1回で海外と行き来できるという大きな利点がある。このような輸送方式を「ハブ&スポーク」システムという。

### なぜ羽田空港をハブ化する必要があるのか？

日本国内では、国際便は成田空港、国内便は羽田空港とすみ分けが進んできていた。しかし、成田は立地条件上アクセスが悪く、国内線で羽田に到着しても成田空港へのアクセスは不便な状況が続いていた。

加えて、地方航空の中には国際線の乗り継ぎに便利な韓国・仁川空港との直行便があるところも多く、乗換に不便な成田空港を利用するよりも、海外の仁川空港を利用する人々も増えた（ジャパン・パッシング：英語リスニングコラム参照）。こうした背景から、危機感を募らせた政府は、2009年10月、羽田空港のハブ化を宣言した。

### ハブ化のメリット

羽田空港がハブ化されれば、利用客の格段の増加が見込まれている。それによる、着陸料、空港使用料による収入アップが見込まれている。また、付属施設、レストランや、空港施設の売り上げ増加も見込まれている。また、空港周辺の自治体にも税金がより多く落ちることになる。

こうした観点でみると、ハブ空港は、経済効果の点から見て非常に重要な役割を果たすことがわかる。空港の活性化は地域の発展と同じほどの意味を持つ。

## 課題

「羽田空港ハブ化」宣言は大きな波紋を国内に投げかけた。特に成田空港にとっては影響が大きくなると思われ、当初、当空港がある千葉県の知事はかなりの反対をしていた。1978年の成田空港開港に至るまでは、多くの苦労があり、現在もその闘争は続いている。国の方針として今回「羽田空港ハブ化」宣言が出るまでは、「成田空港は国際、羽田空港は国内」とのすみ分けが行われてきた。にもかかわらず、成田空港へのアクセスに関して整備されることがなく、不便な環境が続いている。こうした状況の中、羽田は立地上便利だからとの理由もついて「羽田空港ハブ化」宣言が行われた。確かにこれでは大きな波紋を呼んでも仕方がないといえるかもしれない。

## 実情

羽田空港 D 滑走路の運用開始により、羽田、成田両空港を合わせて、現在年間発着回数は 67.2 万回になった。ところが、2030 年には航空需要が伸び、年間 90 万回を超える発着が必要になると見込まれている。「羽田空港ハブ化」宣言をしてみたものの、発着回数の枠は足りないという状態なのだ。こうしたこともあり、成田空港、さらには千葉県知事も「羽田空港ハブ化」宣言に異議を唱えることはなくなった。たとえ、羽田空港を優遇したところで、今後の需要を満たすほどの発着供給をできるわけではなく、成田空港にとっては大きな影響が出ないものと判断したためである。国内のいざこざはあるが、将来的に日本の航空需要は伸びていくことがうかがえる。

## 今後の展開

2010 年 10 月の羽田空港 D 滑走路供用以後、ハワイやサンフランシスコ、バンコク、パリな

ど 14 都市への定期便が就航している。今後も利用拡大を行うため各国と提携関係を結ぶよう働きかけている。来年の試算では利用客が 2009 年度に比べ 3 倍の 860 万人まで増加すると見込まれている。

新滑走路供用後、各航空会社とも良い手ごたえをつかんでいるようだ。地方空港からの乗継も荷物をわざわざ運ぶこともなく行え、大変便利になったとの声が上がっている。羽田空港を利用する一般利用客は、増加の一途をたどっている。今後の羽田空港の発展へ向けて、どのような国の政策や企業の対応があるかが注目される。



【羽田空港上空からの図】